瀬戸内タウンミーティング（今城地区）

平成 22 年 11 月 19 日（金）19 時～21 時
今城コミュニティセンター

参加者：男性 17 人、女性 1 人、計 18 人

市民から出た意見と市長の回答

・11 月 17 日の山陽新聞に掲載された図書館の記事によると、久米南町と瀬戸内市の図書館では蔵書数などに大きな差がある。図書館を建設すれば、図書の購入費なども多額になると予想されるが、結局はお荷物施設になってしまうのではないか。合併特例債を使って建設したものの、そうなった例もあると聞く。
また、今の図書館は借りたい本がない。借りたい本がなければ行かなくなる。利用者がいなければ図書館を建設する意味がない。
場所については決まっているのか。

（市長）新聞記事の数字は、図書室の蔵書数等は含まれていない。その数を入れれば若干数字は上がるものと理解してほしい。
図書館建設後は維持管理が必要になってくるが、その経費の試算についても今日説明した財政予測に含んでいる。財政運営についてはしっかりとやっていきたい。また、図書館は、建物の立派さではなく中身を重要視する。現在、体制づくりを検討している。
場所については現在のところ決まっていない。

・県立図書館に勤めていたことがある。昭和 50 年頃の県立図書館の図書購入費は年間約 5,400 万円。魅力ある蔵書が利用者を増やすことになる。図書館は儲からないが、文化の拠点になる。

・図書館は生活の一部。瀬戸内市に引っ越してきて、図書館を見てビックリした。現在は県立図書館から本を借りているが、返却はこちらでできるものの、借りることはできない。本の購入費は多額になると予想される。新図書館では、インターネットで蔵書を確認し、瀬戸内市の図書館で借りることができるようなことも考えてほしい。そうすればコストも安くなる。

（市長）県立図書館の本の貸し借りについて、市の図書館利用者カードを持っている人は市立図書館で取り寄せ、借りることができる。県立図書館の利用者カードを持っている人は個人で借り入れ申込みを県立図書館に直接してもらい、市の図書館で受け取ることができる。
県立図書館と地方の図書館では役割が違う。地方の図書館の役割は、子ども

が本と出逢う、県立図書館まで毎日行かなくても読みたい本が借りられるといったこと。蔵書についても、冊数の問題ではなく、必要な本を置くといったことを考える。役割や財政面を考えた図書館としたい。

・高齢者にケアマネージャーがついているように、障害者にもケアマネージャーが必要。高齢者については、事情に応じてケアマネージャーが各種手続き等に動いてくれるが、障害者の場合は親などが動くしかない。日々の生活について相談できる人がほしい。

（市長）福祉課がどの程度対応できるのか確認し検討する。

・議会だよりで、上水道の質問の模様が掲載されていたが、それを読んで、水道水の安全性について不安になった。

（市長）議会だよりは議会側が編集している。質問の主旨は、長船地域については井戸水、牛窓・邑久地域については福山浄水場から取水しているが、長船のおいしい井戸水を他地域へも配水できないか、というものであり、福山浄水場の水が危険だという内容ではないと理解している。

長船の水を全市に配水するには水量が足らず、備前市の井戸水をもらったとしても、同じ水脈から取水することになるため、水量は不足すると考えられる。しかし、現在の制度では新たな水源を今すぐ確保することができない。県広域水道企業団から定められた水量を 30%しか取っておらず、100%取らなければ新たな水源の確保は困難な状況である。

・市民病院は、医師のほかスタッフの質が問題であると考えている。そのため、市民病院に行きにくいのが現状であり、今後優秀な医師を確保しても、スタッフの意識改革をしなければ患者が来ないのではないか。

また、リハビリ患者などの交通弱者に対する移動手段についても考えてもらいたい。

（市長）間接的にしか市民病院の業務に携わることはないが、悪い評判はなかなか消えない。市民病院も機能評価を実施しており、一人ひとりが目標を定めて業務を進めている状況である。

また、専門的にリハビリができる場所もつくれるように新病院の検討の中で考えたい。移動手段についてはリハビリと一体として考え、乗り合いタクシーなどの交通手段を考えたい。

・最近、泥棒が増えている。私もガソリン泥棒に遭ったことがあり、常に車のガソリンは空の状態にしている。行政が防犯の音頭をとるだけでも違う。行

政が考える防犯対策はどうか。

（市長）瀬戸内市では警察が中心となった防犯対策が中心で、市独自では、青色防犯パトロールを実施している。問題が多くなれば今後の対応を考えなくてはならない。地域の人と一緒になって、犯罪がおきにくい地域をつくる。自主防犯・自主防災のための組織も必要だと思う。

・今城地区では地域をあげてコミュニティ協議会が防犯・防災の大会を行っている。今年で８回目。
また、以前地区内で起きた不審火をきっかけに、夜の巡回もしている。その後、不審火は１件もない。邑久駅と長船駅では最終電車が出た後、数件のひったくり事件が発生していると聞くが、大富駅では１件も発生していない。

（市長）地域ぐるみで防犯活動を実施することは、犯罪の抑止力になる。

・子どもの保育、学力向上、人間性の向上など、社会や地域ぐるみで子育てを行うという理論はあるものの、責任の所在がはっきりしていない。

（市長）第一義は「親」。足りないところは、保育園や地域が補う。特に、児童虐待の問題は地域と行政が連携する必要がある。

・保育園の入所児童は多いが、幼稚園は空いていると聞く。国に対し幼稚園と保育園の統合についてアピールすべきでは。

（市長）幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省の所管となっている。それを一体化した認定こども園の制度がはっきりすれば、是非実現したいと考えている。

・公害４種について生活環境課に質問したところ、答えられる職員がいなかった。合併すれば高度なサービスが可能になると言っていたが･･･。

（市長）即座に対応できるに越したことはないが、職員も業務が増えており、専門分野では即答できないものもある。事前に電話で相談をしてほしい。